

プラン7 川崎臨海部の再生と都市拠点・ネットワークの整備

アクションプログラム

臨海部の都市再生の推進

【主な実施結果】

羽田空港の再拡張・国際化に対応した神奈川口構想の推進

- ・羽田連絡道路の整備については、「京浜臨海部基盤施設検討会」において、「役割・効果」及び「概略ルート・構造」に関する報告が行われました。

川崎殿町・大師河原地域や浜川崎駅周辺地域における活力ある臨海都市拠点の整備

- ・川崎殿町・大師河原地域の拠点整備に向け、殿町3丁目の大規模工場跡地に関し、羽田連絡道路の計画進捗を勘案し、可能な範囲から土地利用を進めるための調査検討や企業誘致に向けた検討を進めました。
- ・浜川崎駅周辺地域の拠点整備に向け、小田栄2丁目地区において、用途地域の変更や地区計画を定め、整備計画に沿ったまちづくりを進めました。また、南渡田北地区の整備に向けて検討会で問題点の整理を行うなど、「都市再生事業計画」の策定に向けた調整を進めました。

【課題と第2期実行計画における取組】

「臨海部の都市再生の推進」はおおむね順調に実施されました。第2期実行計画においても引き続き、羽田空港の再拡張・国際化を契機に神奈川口構想の実現に向け、土地利用の誘導及び企業等の誘致を図るとともに、羽田連絡道路の整備に向け、「役割・効果」を踏まえ、ルート・構造の絞込みの検討を促進させるため、関係機関等との調整・協議を行います。

都市拠点・ネットワークの整備

【主な実施結果】

川崎駅周辺地区の整備

- ・川崎駅周辺総合整備計画策定協議会等での意見を踏まえ、「川崎駅周辺整備計画」を策定しました。また、川崎駅周辺総合整備事業推進会議等での意見を踏まえ、社会実験を執り行い「川崎駅東口駅前広場再編整備計画」を策定し、東口駅前広場再編整備の基本設計を完了しました。その他、「川崎駅周辺整備計画」において、東口地下街へ降りるエスカレーターを増設、京急川崎駅前エスカレーターを新設しました。
- ・川崎駅西口の整備については、堀川町地区では、大型商業施設に合わせて、大宮中幸町線、川崎駅西口線及び川崎駅西口第一駅前広場が完成しました。また、大宮町地区では西口さんかく公園及び西口さくら緑地が完成し、中幸町地区では中幸町3丁目さくら公園が完成しました。

小杉駅周辺地区の整備

- ・JR横須賀線武蔵小杉新駅の整備については、JR東日本と協定を締結し2007年度に工事着手しました。
- ・市街地再開発等事業については、グランド地区、中丸子地区及び東部地区は、計画どおりに実施し、新中原消防署が完成しました。南口地区西街区は、再開発事業の組合設立及び権利変換計画の認可を経て、変電所工事に着手しました。南口地区東街区は、工事着手に至らず、都市計画決定と組合設立に向けた協議調整を行うとともに、小杉町3丁目中央地区は、組合設立・工事着手に至らず、再開発事業の都市計画手続きに着手にとどまりました。小杉町3丁目東地区は、準備組合設立を行い、再開発事業をめざした協議を行いました。

新百合ヶ丘駅周辺地区の整備

- ・万福寺土地区画整理事業については、計画どおり2007年度に換地処分を行い、区画整理登記を完了しました。また、2007年度にアートセンターを開館しました。

新川崎駅周辺地区の整備

- ・道路等基盤整備については、工事中路線の民間施設完成に応じて部分的に通行できるようにし、一般供用へ向けた手続きを進め、一部道路について供用を開始しました。また、民間開発については、2004年度に定めた地区計画に基づき、事業展開時に誘導しました。
- ・江ヶ崎跨線橋は、仮設道路及び仮設人道橋の整備に着手しました。

アクションプログラム

溝口駅、宮前平・鷺沼駅、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区の整備

- ・溝口駅南口広場の整備に向け、ペDESTリアンデッキの整備に着手しました。
- ・鷺沼プール跡地に保育所、小学校、フットサル施設、広場を整備しました。また、鷺沼駅周辺における交通量等調査を実施し、現状の把握や課題の整理を行いました。さらに、駅前広場の改良プランの検証などを行いました。
- ・登戸区画整理事業は、仮換地指定率が約52%に達しました。また、登戸駅南北自由通路及びペDESTリアンデッキは、2006年10月に整備を完了しました。
- ・向ヶ丘遊園駅自由通路整備は、基本設計、概略設計を実施し、その結果、将来的に橋上駅舎との接続を前提としない連絡通路方式へと方針転換を行いました。

市内都市拠点を連携・支援するネットワークの整備

- ・幹線道路の整備を促進し、宮内新横浜線(上小田中工区)ほか6工区の整備を完了しました。
- ・市内拠点開発を支援する尻手黒川線(期)、東京丸子横浜線(市ノ坪工区)の工事に着手しました。
- ・京浜急行大師線連続立体交差については、工事に着手し、用地の取得を図りながら整備を推進しました。
- ・国道409号については、市ノ坪工区の用地取得を進めるとともに、二子工区の本格整備に着手しました。

社会経済環境の変化や都市計画決定以降の取組状況などを踏まえた都市計画道路網の見直し

- ・「都市計画道路網のあり方について」の中間答申を公表し、パブリックコメントを経て、2008年3月に都市計画審議会から「都市計画道路網のあり方について」の最終答申を得ることができました。また、併せて見直し手続きに着手しました。

【課題と第2期実行計画における取組】

「都市拠点・ネットワークの整備」は、おおむね順調に実施されました。駅周辺など拠点開発とこれを支援する幹線道路の整備については、地元や関係機関等と調整を図りながら第2期実行計画においても引き続き整備を推進します。また、川崎駅周辺総合整備計画における東口駅前再編整備は、第2期実行計画期間の完成をめざし、関係機関と連携を図りながら推進します。

広域交通体系の整備

【主な実施結果】

川崎縦貫道路の整備促進

- ・期事業については、殿町出入口から大師ジャンクションまでの街路形態に関する地元や交通管理者との協議等についておおむね基本合意しました。また、大師ジャンクション以西の国道409号の街路先行整備について、大師駅前2丁目から国道15号までの区間の地元意見を踏まえた整備計画案を策定しました。
- ・期計画については、計画の検討状況と今後の進め方について国等と調整を行い、高速料金値下げや道路特定財源の確保等と併せ多くの要請を行いました。川崎縦貫道路の必要性のアピールのため、関係機関と連携し「市民まつり」等での広報活動を実施しました。
- ・首都高距離別料金制については、議会等関係機関の意見を踏まえ、料金案に対する市の意見を整理し国や首都高速道路株式会社あてに要望書を提出しました。

事業再評価に基づき、路線を一部変更して武蔵小杉駅に接続する計画での川崎縦貫高速鉄道線整備事業の取組

- ・新百合ヶ丘駅から武蔵小杉駅に接続する計画で、路線・建設・運行等各計画の調査を実施し、その結果を取りまとめ、小杉接続計画案として概要を公表しました。また、国や関連鉄道事業者等に対し、本事業の首都圏ネットワークにおける位置づけ、需要予測等を幅広く説明し、協議を実施しました。

アクションプログラム

【課題と第2期実行計画における取組】

「広域交通体系の整備」は、川崎縦貫道路 期事業が順調に実施されました。第2期実行計画においても、川崎縦貫道路 期事業については、殿町から大師ジャンクション間を供用開始に向けて事業を促進し、 期計画については今後の社会経済情勢や、高速道路ネットワーク構築の動向等を見定めながら、引き続き、国や関係事業者との円滑な協議・調整を行います。

また、首都圏における広域鉄道ネットワークの形成に寄与するとともに、市内交通の円滑化と市民の利便性向上を図る川崎縦貫高速鉄道線整備事業の取組を進めます。

施 策 計 画

事 業 名	現 状	目 標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降

アクションプログラム：臨海部の都市再生の推進

- 羽田連絡道路の整備
羽田空港の再拡張・国際化にあわせ、羽田連絡道路の整備とそれに連携した臨海部交通ネットワーク基盤の検討を進めることにより、京浜臨海部の活性化を推進します。

基本計画検討

ルート・構造及び環境等の調査・検討

環境アセス・都市計画手続



着 工

実施結果

進捗状況区分
7

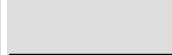
・羽田連絡道路の「ルート・構造」の確定までには至りませんでしたが、「京浜臨海部基盤施設検討会」において、「役割・効果」及び「概略ルート・構造」に関する報告を行いました。2007年度までにルート・構造に関する関係機関の合意を図り、ルート・構造及び環境等の調査・検討を行う予定でしたが、2008年度以降になる見込みです。
・羽田空港再拡張事業貸付金については、国が実施した羽田空港再拡張事業に対して貸付けを行いました。
【変更後の目標】
2006年度 ルート・構造(案)に関する関係機関の合意を図るため、ルート・構造及び環境等の調査・検討
2007年度 ルート・構造(案)に関する関係機関の合意及び環境等の調査・検討

- 川崎殿町・大師河原地域の拠点整備
都市再生事業計画の策定、事業化に向けた調整を行い、都市基盤の整備と企業等の誘致により、神奈川口構想の実現と活力ある臨海都市拠点を整備します。

特定地区の整備計画策定

都市再生事業計画の策定

企業等の誘致
順次整備着手



実施結果

進捗状況区分
6

土地利用の前提となる羽田連絡道路計画が決まらない状況から、都市再生事業計画の策定には至りませんでしたが、殿町3丁目地区において、可能な範囲から土地利用を進めるための調査検討や企業誘致に向けた検討を進めました。
【変更後の目標】
2007年度 2010年再拡張・国際化の効果を見据えた土地利用の誘導に向けた、殿町3丁目地区の土地利用推進調査

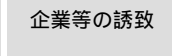
- 浜川崎駅周辺地域の拠点整備
広域的視点から求められる新たな機能立地に必要な基盤整備や土地利用転換の動向を視野に入れながら、活力ある臨海都市拠点を整備します。

特定地区の整備計画策定

事業推進
方策検討

都市再生事業計画の策定

企業等の誘致
順次整備着手



実施結果

進捗状況区分
6

企業活動の活発化により、土地利用転換を前提とした都市再生事業計画の策定には至りませんでしたが、先行的に土地利用を進めている小田栄2丁目地区において、用途地域の変更や地区計画を定め、整備計画に沿ったまちづくりを進めました。
【変更後の目標】
2006年度 小田栄2丁目地区の都市計画手続き及び都市再生事業計画の策定
2007年度 都市再生事業計画(案)の策定

アクションプログラム：都市拠点・ネットワークの整備

- 川崎駅周辺地区の整備
駅西口の民間活力を活かした商業、業務、文化機能や都市型住宅機能の整備を進め、魅力と活力のあるまちづくりを進めるとともに駅東西の回遊性の向上や東口広場のバリアフリー化など課題の解決と魅力の向上に向けた総合的な取組を進め、本市の広域都市拠点の形成を推進します。

堀川町商業施設等の整備

継続実施

完 成

西口駅前広場・西口線等整備

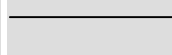
継続実施

完 成

川崎駅周辺総合整備基本方針策定

川崎駅周辺総合整備実施策定

整 備



実施結果

進捗状況区分
1

・川崎駅周辺総合整備計画策定協議会等での意見を踏まえ、「川崎駅周辺整備計画」を策定しました。
・川崎駅周辺総合整備事業推進会議等での意見を踏まえ、社会実験を執り行い「川崎駅東口駅前広場再編整備計画」を策定しました。
・川崎駅東口駅前広場再編整備基本設計を完了しました。
・東口地下街へ降りるエスカレーターを増設しました。
・京急川崎駅前エスカレーターを新設しました。
・東口駅前広場の事業認可を取得しました。
・西口堀川町地区では、大型商業施設に合わせ、大宮中幸町線及び川崎駅西口線が完成しました。
・川崎駅西口第一駅前広場が完成しました。
・西口大宮町地区では、西口さんかく公園及び西口さくら緑地が完成しました。
・中幸町地区では、中幸町3丁目さくら公園が完成しました。

施 策 計 画

事 業 名	現 状	目 標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
○ 小杉駅周辺地区の整備 (小杉駅周辺再開発事業) 民間開発の適切な誘導と支援により、魅力的な都市型住宅や利用しやすい公共公益施設の整備など都市機能の整備を推進し、本市の新たな玄関口にふさわしい都市拠点の形成を推進します。	(小杉駅南部地区)				
	グランド地区 都市計画手続等	着 工			(市民館)
	南口地区西街区 都市計画手続等	組合設立	着 工		(図書館)
	南口地区東街区 都市計画 手続準備	都市計画手続	組合設立	着 工	整備促進
	(中丸子地区) 着 工				
(JR横須賀線・武蔵小杉新駅の整備) 新幹線駅や隣接都市拠点との連絡性の向上や小杉駅周辺地区の広域的な都市機能の向上等を図る武蔵小杉新駅を整備します。	(東部地区) 中原消防検討	中原消防設計	中原消防改築・着工	中原消防竣工	
	(小杉町3丁目中央地区) 準備組合支援	準備組合支援	再開発 都決	組合設立・着工	
	(小杉町3丁目東地区) 地元調整	地元協議			
	事業調整	概略設計 関連用地取得	詳細設計	工事着手	2009年度完成
実施結果 進捗状況区分 6		・グランド地区、中丸子地区及び東部地区は、計画どおりに実施し、新中原消防署が完成しました。 ・南口地区西街区は、再開発事業の組合設立及び権利変換計画の認可を経て、変電所工事に着手しました。 ・地権者との協議調整に時間を要した南口地区東街区は、工事着手に至らず、都市計画決定と組合設立に向けた協議調整を行うとともに、小杉町3丁目中央地区は、組合設立・工事着手に至らず、再開発事業の都市計画手続きに着手するにとどまりました。 ・小杉町3丁目東地区は、準備組合設立を行い、再開発事業をめざした協議を行いました。 ・JR横須賀線武蔵小杉新駅の整備については、当初目標どりのスケジュールでJR東日本と協定を締結し、2007年度に工事着手しました。 【変更後の目標】 2007年度 東街区 組合設立認可申請 小杉町3丁目中央地区 都市計画手続き 小杉町3丁目東地区 準備組合設立			
○ 新百合ヶ丘駅周辺地区の整備 万福寺土地区画整理事業の促進や新百合ヶ丘駅周辺地区における交通機能の改善などにより拠点機能の向上を図るとともに、アートセンターの整備や2007年度に進出する昭和音楽大学との連携を通じて芸術のまちづくりを推進します。	万福寺土地区画整理事業	事業支援		整備完了	
	アートセンター基本計画策定	基本・実施設計	建設工事	開 館	
	新しい市民利用施設の検討		建設工事(民間)	開 館	
実施結果 進捗状況区分 1		・万福寺土地区画整理事業については、計画どおり2007年度に換地処分を行い、区画整理登記を完了しました。 ・2007年度にアートセンターを開館しました。			

進捗状況区分の内容については33ページをご参照ください。

施 策 計 画

事 業 名	現 状	目 標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
○ 新川崎駅周辺地区の整備 都市計画に基づく民間開発の適切な誘導と交通広場などの都市基盤施設の整備により、新川崎地区のJR操車場跡地における研究開発、産業の創出・育成、商業、都市型住宅などの諸機能が集積した新たなまちづくりを推進します。	(都市基盤整備)				
	都市計画決定	実施設計	交通広場・道路等の整備		
	民間開発の誘導	継続実施			
	江ヶ崎跨線橋の架替の基本合意	基本設計	実施設計	整備着手	2010年度完成
実施結果 進捗状況区分 1		・道路等基盤整備については、工事中路線の民間施設完成に応じて部分的に通行できるようにし、一般供用へ向けた手続きを進め、一部道路について供用を開始しました。 民間開発については、2004年度に定めた地区計画に基づき、事業展開時に誘導するとともに、景観形成に関する協議を並行して進め、2007年度末に都市景観審議会の諮問を経て景観形成基準を告示しました。 ・江ヶ崎跨線橋は、事業主体である横浜市と連携して、2010年度架替整備完成に向け、事業を推進します。			
○ 溝口駅南口広場の整備 JR武蔵溝ノ口駅及び東急溝の口駅利用者の利便性向上を図るため、駅前広場やペデストリアンデッキの整備を推進します。	(南口広場)				
	用地取得 (ペデストリアンデッキ)	実施設計	整備着手	完 成	2008年度完成
実施結果 進捗状況区分 7		南口広場については、用地交渉を行いました。協力が得られず、事業用地の取得に至りませんでした。ペデストリアンデッキについては、工事の入札に時間を要したことから、2007年度内の完成に至りませんでした。 【変更後の目標】 2007年度 駅前広場整備に必要な用地取得			
○ 宮前平・鷺沼駅周辺地区の整備 鷺沼プールの跡地整備の推進や交通広場など駅周辺の交通環境の向上に向けた検討などを進め、拠点地区の魅力の増進を図ります。	広場設計	広場整備	開 園		
	保育所	保育施設整備	開 園		
	(仮称)土橋	学校施設整備	開 校		
	小学校整備	鷺沼駅周辺交通環境等の調査・検討			
実施結果 進捗状況区分 1		鷺沼プール跡地に保育所、小学校、フットサル施設、広場を整備しました。また、鷺沼駅周辺における交通量等調査を実施し、現状把握や課題整理を行い、交通事業者との意見交換を行いました。さらに、駅前広場の改良プランの検証や、今後の土地利用方策についても検討を行いました。			
○ 登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区の整備 登戸土地区画整理事業を推進し、登戸駅の駅舎改良や自由通路の整備を進め、交通機能の向上と鉄道による地域分断の改善を図ります。また、向ヶ丘遊園駅周辺については自由通路の整備や駅北口における民間再開発を支援し安全で快適な拠点地区の形成を推進します。	区画整理事業の推進	継続実施			
	登戸駅自由通路・ペデストリアンデッキ等整備	自由通路一部供用開始	自由通路及び橋上駅舎供用開始		
	向ヶ丘遊園駅自由通路調査	基本設計			
			概略設計	実施設計	整備推進
実施結果 進捗状況区分 6		・登戸区画整理事業は、仮換地指定率が10%伸び、累計で約52%に達しました。 ・登戸駅南北自由通路及びペデストリアンデッキは、2005年度に一部暫定供用を開始し、2006年10月に整備を完了しました。 ・向ヶ丘遊園駅自由通路整備は、2005年度に基本設計、2006年度に概略設計を実施しました。その結果、自由通路方式では地上との高低差が大きくなることによる利便性等の課題が大きいことが判明したため、2007年度に将来的に橋上駅舎との接続を前提としない連絡通路方式へと方針転換を行いました。 【変更後の目標】 2007年度 「向ヶ丘遊園1号踏切除却」が可能な連絡通路の立案			

施 策 計 画

事 業 名	現 状	目 標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
幹線道路網の整備（街路・道路） 円滑な道路交通を確保するとともに、小杉駅周辺地区や新百合ヶ丘駅周辺地区の広域拠点としてのまちづくりを支える東京丸子横浜線や国道409号、尻手黒川線の整備を推進します。	尻手黒川線（期）整備（上麻生～世田谷町田線） 東京丸子横浜線（市ノ坪）整備（新丸子東～今井南町） 国道409号（市ノ坪）整備	整備推進 整備推進 整備推進	→ → →	2008年度完成 2009年度完成 →	
実施結果 進捗状況区分 1		尻手黒川線（期）は、工事を推進しました。 東京丸子横浜線（市ノ坪）は、一部用地取得の協力が得られませんでした。用地取得済み箇所については工事に着手しました。（用地取得率99%） 国道409号（市ノ坪）については、市ノ坪交差点から川崎側の用地取得をおおむね完了しました。			
大師橋の整備 臨海部の主要幹線道路である産業道路のボトルネックとなっている大師橋の渋滞緩和を図るため、2006年度の完成（6車線供用）に向けて事業を推進します。	暫定供用（上り2車線、下り1車線）	→	完成・全面供用（6車線）		
実施結果 進捗状況区分 1		大師橋については、2006年度に整備を完了し、6車線による全面供用を開始しました。			
都市計画道路網の見直し 社会経済情勢などの変化を踏まえ、都市計画道路網の見直し方針を取りまとめ、見直しが必要な路線については都市計画変更を行います。	検 討	都市計画道路網のあり方検討	見直し方針策定	見直し手続	→
実施結果 進捗状況区分 1		2005年8月の都市計画審議会において「都市計画道路網のあり方について」諮問を行うとともに、専門の検討機関として、都市計画道路網のあり方検討小委員会を設置し検討を進めました。その間、「見直しの基本的な考え方」や「路線別見直し方針」についてのパブリックコメントを経て、2008年3月に都市計画審議会から「都市計画道路網のあり方について」の最終答申を得ることができました。また、併せて見直し手続きに着手しました。			
京急大師線連続立体交差の推進 最も費用対効果の大きい産業道路（東門前駅～小島新田駅間）を優先的に立体化する段階的整備を推進します。	設 計 用地取得	用地取得 整 備			→ 産業道路の立体化2010年度完成
実施結果 進捗状況区分 1		産業道路の立体交差化の2010年度完成を目指して工事に着手し、その進捗に合わせて関係地権者の協力を得て用地の取得を図るとともに、大規模送電設備（塩浜北線）の移設・撤去を行い、おおむね計画通り整備を進めました。			

進捗状況区分の内容については33ページをご参照ください。

施 策 計 画

事 業 名	現 状	目 標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
東急東横線元住吉1号踏切等関連施設改良の推進 混雑緩和と輸送力増強にあわせ、元住吉1号踏切の遮断時間の大幅な短縮により、鉄道による市街地の分断を改善し、地域の活性化を図ります。	整 備	継続実施			2009年度完成
実施結果 進捗状況区分 1		工事の円滑な進捗により、東急東横線本線及び元住吉駅新駅舎の高架への切り替えを2006年9月に実施し、元住吉1号踏切の遮断時間を大幅に短縮することができました。また、その後の工事についても計画どおり継続して実施しました。なお、当該工事において設計変更を行う必要が生じたことから、設計変更の内容を詳細に検証した上で、工事費用の増額に関する東急電鉄との負担協議等を進め、負担区分の方針や基本協定書の変更手続きについて東急電鉄との協議が成立しました。			

アクションプログラム：広域交通体系の整備

川崎縦貫道路の整備 期の整備を促進し、本市の都市機能の強化や首都圏の広域道路網の形成を推進するとともに、期については、将来の高速道路ネットワーク形成の動向等を見定めながら、ルート・構造等の見直しを進めます。	一部供用 整 備	期の整備促進 期のルート・ 構造等の見直し			
実施結果 進捗状況区分 1		- 期事業については、殿町出入口から大師ジャンクションまでの街路形態に関する地元や交通管理者との協議等についておおむね基本合意しました。また、大師ジャンクション以西の国道409号の街路先行整備について、大師駅前2丁目から国道15号までの区間の地元意見を踏まえた整備計画案を策定しました。 - 期計画については、計画の検討状況と今後の進め方について国等と調整を行い、高速料金値下げや道路特定財源の確保等と併せ多くの要請を行いました。川崎縦貫道路の必要性のアピールのため、関係機関と連携し「市民まつり」等での広報活動を実施しました。 - 首都高距離別料金制については、議会等関係機関の意見を踏まえ、料金案に対する市の意見を整理し、国や首都高速道路株式会社あてに要望書を提出しました。			
川崎縦貫高速鉄道線の整備 本市の都市機能の向上を図るとともに、首都圏の広域鉄道ネットワークの形成を推進する川崎縦貫高速鉄道線整備事業に取り組みます。	事業再評価 の実施	事業再評価に基づき、路線を一部変更して武蔵小杉駅に接続する計画での取組			
実施結果 進捗状況区分 1		- 国の事業再評価結果を受け、元住吉接続計画での鉄道事業の廃止手続き等を行いました。 - 新百合ヶ丘駅から武蔵小杉駅に接続する計画で、路線・建設・運行等各計画の調査を実施し、その結果を取りまとめ、小杉接続計画案として概要を公表しました。 - 国や関連鉄道事業者等に対し、本事業の首都圏ネットワークにおける位置づけ、需要予測等、幅広く説明し、協議を実施しました。 - 国や関連鉄道事業者等との協議を踏まえながら、路線・建設・運行等各計画の深度化を図るとともに、建設コストの縮減についても取り組みました。			